

海水浴場に関する海岸工学的研究 (18)

建設省近畿地方建設局 正 員○光田 佳也

関西大学工学部 正 員 島田 広昭

関西大学工学部 正 員 井上 雅夫

1. は じ め に

近年、各地で人工海浜が建設され海水浴場として利用されているが、これらは、利用者にとって、必ずしも満足できるものではない。そこで本研究では、82年に開設された淡輪海水浴場における利用者意識の経年変化について検討し、海水浴場の自然条件の変化が利用者意識にどのような影響をおよぼすかを明確にしようとした。

2. 調 査 方 法

調査は、泉南海岸の淡輪海水浴場において各年とも2～6日ずつ行った。アンケートによる意識調査は、利用者の属性、海水浴場に来た目的、海水浴場の自然条件、海水浴場に対する総合評価などについて、海水浴場の混み具合がほぼ一定となる各調査日の12時から15時の間に直接面接法により行った。調査対象者は、いずれの年も10代や20代の若年層が30代以上の高年層に比べて多くなっているが、各年代ごとの男女比はいずれも1:1である。また、自然条件や利用者分布の調査は、各調査日の10時から15時までの1時間ごとに行った。

3. 調査結果とその方法

表-1には、淡輪海水浴場に日光浴を目的に来た人の割合を示した。なお、淡輪海水浴場における利用者の海水浴場へ来る目的は、いずれの年も日光浴が第一位であり、

表-1 日光浴を目的で来た人の割合

年 度	82	83	84	85	86	87	88
日光浴の割合 (%)	29	35	38	45	43	49	52

ついで水泳、浜遊びとなっている。これによると、日光浴は年々多くなり、88年には半数以上にもなっている。したがって、海水浴場では、利用者の砂浜を利用する時間は長く、砂浜条件の良否は利用者意識に大きな影響を与えるようである。

図-1には、砂浜の利用密度に対する利用者の満足度を示した。この場合の満足度は、込み具合に対して「すいている」、「ややすいている」、「適当」と答えた人の全調査者に対する比である。これによると、利用密度と利用者の満足度とはよく対応している。また、84年は平日だけの調査のため、砂浜の利用密度が $7.5\text{m}^2/\text{人}$ と広く、満足度も80%程度と高くなっている。年齢別では、若年層のほうが満足度は低く、この傾向は女性のほうが顕著である。特に、白丸で示したもっとも厳しい評価をしている10代の女性については、全調査者の平均値よりも10%程度低くなっている。

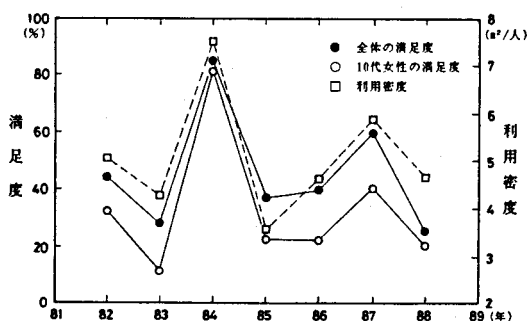


図-1 利用密度に対する満足度

図-2には、砂浜の底質に対する利用者の満足度を示した。この場合の満足度は、砂浜の底質に対して「細かい」、「やや細かい」、「適当」と答えた人の全調査者に対する比である。これによると、84年と88年を除いて、底質の中央粒径と利用者意識はほぼ対応していることがわかる。また、底質の中央粒径については、 1mm 以上になると満足度が50%以下と低くなっている。なお、図示はしていないが、二色の浜のよう

Yoshinari MITSUDA, Hiroaki SHIMADA, Masao INOUE

に底質の淘汰係数が大きく、貝殻の混入も多くなると、中央粒径が0.5mm程度であっても満足度は低くなる。このことから、砂浜の底質については、粒径が細かく均質で貝殻の混入が少ないものを使用することが望ましい。また、年齢別にみると、利用密度と同様に、もっとも厳しい評価をしている10代の女性の満足度がいずれの年も低くなっている。これは、海水浴場へ来る目的が10代の女性は日光浴と答えている人がかなり多いことから、この影響が現れたものと考えられる。

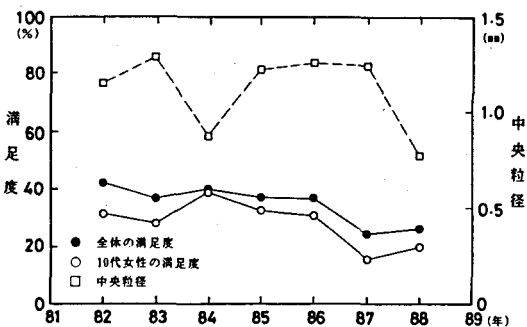


図-2 砂浜の底質に対する満足度

図-3には、海底勾配に対する利用者の満足度を示した。この場合の満足度は、海底勾配に対して「適当」と答えた人の全調査者に対する比である。これによると、82年を除いて海底勾配が緩やかになるほど利用者の満足度も高くなっている。また、85年に海底勾配が極端に緩くなっているが、これは増設された200mの区域の海底勾配が緩いため、全体の平均値が緩くなったものである。年齢別にみると、男性・女性ともに若年層よりも高年層のほうが満足度は低くなる傾向がみられる。特に、30代の女性は、海底勾配を除く他の項目の満足度は高いが、図-3の場合には全体の満足度と等しいか、むしろ逆に低いこともある。これについては、高年層は家庭サービスのために来た人の割合がかなり多く、子供が遊ぶにはやや急な勾配であると感じているため、満足度が低くなったものと考えられる。

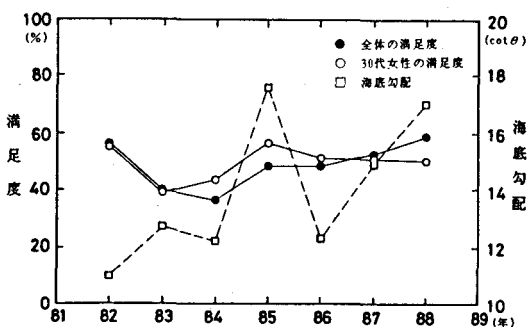


図-3 海底勾配に対する満足度

図-4には、透視度に対する利用者の満足度を示した。この場合の満足度は、透視度に対して「きれい」、「ややきれい」、「普通」と答えた人の全調査者に対する比である。これによると、透視度と利用者の満足度は非常によく対応している。また、図示はしていないが、海水浴場の評価基準に水質と答えた人の割合がもっとも多いことや、淡輪海水浴場の選択理由として水がきれいなことと答えた人が二番目に多いことから、利用者は水質に対してきわめて敏感なようである。年齢別にみると、もっとも厳しい評価をしている10代の女性は、いずれの年も若干ではあるが低くなっている。水質に対する満足度については、透視度だけでなく、浮遊物の有無にも大きく影響される。淡輪海水浴場では、毎日浮遊物の除去を行っているため、比較的少ないが、透視度が淡輪と同じ程度であっても、浮遊物が多い他の海水浴場では満足度はかなり低下する。

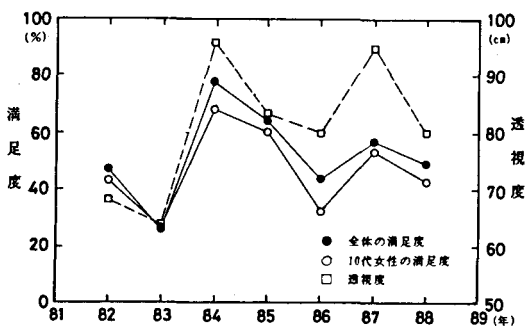


図-4 透視度に対する満足度

以上、淡輪海水浴場の経年変化について検討を行ってきた。その結果、いずれの項目についても、その若干の変化に利用者意識はよく対応していることがわかった。また、年齢・性別では、海底勾配を除いて若年層の満足度が低いことを明らかにした。最後に、この研究を行うにあたり、貴重な数多くの資料を提供していただいた関係官庁の各位、現地調査や図面作成を熱心に助力してくれた、現在、近畿地建 小寺秀治、堺市役所 福田次郎の各君ならびに当時関西大学海岸研の学生一同に深甚な謝意を表する。